

# 地域社会学校の概念考察に関する一資料

寺 本 彦

## 第一章 地域社会学校の概念

### 第一節 地域社会学校が意圖するもの

#### 一、著者オルセン達の狙い

##### (1) われわれの要求

現代には地域社会という本土から文字通り離れ小島となつた学校が多く、それはいわば教育的孤島ともいふべきであつて傳統という海峡によつて、周囲の世界から遮断され、島の住民としての児童生徒達は授業中敢えてこの海峡を渡らうともしない。成程彼等は書物の中で彼等ととりまく世界のことを読み、学校がひけると本土即ち地域社会へ帰つて行く、然し学校と地域社会間を自由に往来し得る橋を架けた学校が果して少くつあるであらうか。

##### (2) われわれの目的

現代は、学校で児童が單なる書物学習をする以上のものを必然的に要求している。学校は地域社会のあらゆる資源を利用して、児童が社会的現実と直結して価値ある学習をするように教育してやらねばならない。

この種の学校が全然ないとはいわないが、もつと急速に拡大されるべきではなからうか。学校と地域社会はもつと生き／＼と交渉すべきである。この際学校が主導して地域社会を活用することを忘れてはならぬ。

##### (3) われわれの方法

教育的任務を遂行する教師教育は、單なるアカデミックな傳統的方法のみを以てしてはその成功が望まれない。教師と学校とは地域社会の組織的機関と、両親との協力を必要とする。従つて現職前の教育は (Pre-service Education) 地域社会との關係を構成する方法を学校の内外を通じて学ばしめねばならぬ。

教師は教え兒の背景を認識し了解しなくてはならない。又教え兒が力を發揮する場を自己の体験から教えてやらねばならない。でなければどうして児童、生徒を有能な市民たらしめることが出来ようか。

#### 二、オルセンの教育的情熱

私は數々の研究から次のことを学んだ。

- 1 すべての生活は教育的でなければならぬ。
- 2 民主的な学校は地域社会の發展に直結しなくてはならない。
- 3 生活領域と生活問題が教育課程に方向を与えねばならない。
- 4 生きた教育は地域社会建設に積極的に参加しなければならぬ。
- 5 現代においては、地域社会はその領域を單なる郷土に限定することなく更に地方的、国家的、國際的なものとして考えなければならぬ。

そこで私は廣い地域社会研究と奉仕の必要を痛感して地域社会教育運動の歴史を概観し、(別表1) 地域社会の分析と研究と奉仕の技術を探究したい。

モンテイレーヌはいみじくも言った。「世界こそ青年が研究するに価する書物である」と。

註 私はモンテイレーヌのこの深き観知ある言葉に関連して二宮翁夜話を想い出す。「夫れ我が教えは書籍を尊まず、故に天地を以つて経文とす、予が歌に「音もなくかもなく常に天地は書かざる経をくりかへしつ」とよめ

学校と地域社会、地域社会学校計画、社会過程としての教育、教師と地域社会、初等中等学校教育、教育方法、教育社会学、教育の基礎、教育哲学等について学徒に学ばせたい。單に学徒、教師、学校管理者のみではなく一般民衆にまでこの地域社会精神を徹底させたいのである。

り。此のごとく日々繰返し、しめざる天地の経文に、誠の道は明らかなり掛る尊き天地の経文を外にして、書籍の上に道を求むる、学者輩の論説は取らざるなり。能目を開きて、天地の経文を拜見し、之を誠にする道を尋ねべきなり」

(別表1)

アメリカの学校の傾向の概念

学校の類型	學習學校	進歩的學校	地域社會學校
基本的立場	書物中心	兒童中心	生活中心
勢力のあつた時代	1910年まで	1920—1930年まで	1940年から現在まで続いている
人間の本質に対する考え方(人生観)	性惡説(原罪を認める)	性善説(生来完全なものとする)	性無記説(環境によつて善にも惡にもなる)
訓練の方法	強制的訓練(むちをおしむな)	強制から解放(自然的発達に従ふ)	仕事に責任をもたせしめ(わが仕事はなすべし)
基本的な目標	記憶(定義をし分類をする)	理解し表現する(理解し情緒に訴ふる)	善き意味の統制(処理させ改善させる)
教育課程の類型	訓練教科の重視(文法、歴史、数学等)	兒童の興味中心(エスキモーの話、家の話など)	社会問題の重視(食物や保健のことなど)
學習の価値	すべてが將來の爲に(子供の興味に全然無關心)	すべて直接的なものを学ぶ(大人の要求に全然無關心)	將來のことを、現方関係のことが小供の興味)
地域社会との関係	全然無視される(教室は象牙の塔、地域社会は無視される)	時に利用する(教室は生活の模写であり、地域社会は教材と経験の出所である)	組織的に奉仕を経験する(教室は交換所であり、地域社会の改造の場である)
学校と地域社会と関係させる方法	(1) 文献的教材を教えることによる (2) 視覚的、聴覚的、教材による (3) 専門家を招へいする	(1) 全左 (2) 全左 (3) 全左 (4) 会見する (5) 見学旅行をする (6) 調査をする (7) 出張研究をする (8) 共同宿泊をする	(1) 全左 (2) 全左 (3) 全左 (4) 全左 (5) 全左 (6) 全左 (7) 全左 (8) 全左 (9) 奉仕活動をする (10) 職業実習をする

### 三、ケアールの賛意

「地域社会学校は民主主義教育の諸問題を解決する鍵である」とのオルセンの確信に共感した。

註 (ケアールはアメリカ教育協会連合書記長)

八〇年前オスウェーゴの学校長セルドンがもたらした教育思想は一九世紀後半のアメリカ教育界においては、まさに劃期的なものであつた、彼は世界を学校の教室へ持ち来たらさんとした。然るにオルセンは更に教室を世界に持ち出さんと願う。彼は学校と地域社会を分離した深い堀に十條の橋を架ける方法を教えてくれた。その一つの／＼の橋は、地域社会が学校の資源を利用し、学校が地域社会を活用する通路である。

現代の学校は地域社会を大きな生きた実験場として用うべきであり、市民は自己の生活の教科書として学ぶべきである。よい本は学習の本質的な道具である。しかし本から学ぶことの出来ない多くの課業が世の中にあることを忘れてはならぬ、こんな意味で地域社会研究は今後もつと盛んになるべきであり、学校は地域社会を教育の効果的手段として利用し、又地域社会に役立たねばならない。

校庭、学校施設がもつと民衆に開放され、もつと遅くまで学校に電灯が灯されてよい。危険な道路で遊んでいる子等、校庭はひろびろとして鍵がかゝつている。これよりいであらうか。

将来の学校建築計画は地域社会の奉仕を念頭においてなされ、奉仕可能な予算の計上が必要である。オルセンの願は遠大である。

地域社会学校は單なる教育上のよい学校を求めるのみでない。国民の生活向上の学校を求めているのである。

## 第二節 生活中心学校の概念

こゝでは地域社会学校即ち生活中心学校とはどんな学校であるかという間に答えようとするのが眼目である。

一体現<sup>リアリテック</sup>實的な教育者達はつと以前から学校における經驗をもつと大きな生活々動と密接に結びつけようとする教育の社会的要求を認識していた。ペスタロッチーなどその顯著な代表者である。もつと近代になつてデューイーの哲学は教育と社会との關係を強調した。

更に最近に至つて原初的社會關係の衰頹を憂えたこと、一九三〇年の經濟的大恐慌並びに一九四〇年の世界大戰によつて惹起された切迫した社會情勢に促されて教育のリアリズムがアメリカでは大きく問題となつて来た。

傳統的な学校の教育と現代青少年の生活要求との間に存するギャップに注意を向けた結果学校教育は、若し修道院的教室から抜け出て、生きた地域社会に進出しなければ、個人の自己發展も、一般的な社會的幸福も効果的に發展させることが出来ないであろうとの意見が起つて来た。

かゝる立場から生活中心の学校が果すべき少くとも次の五つの重要な概念が生じた。その中、第一、第二、第三は地域社会を学校にひき入れる面であり、第四、第五は学校を地域社会におし出してやる面である、即ち

1 学校は成人達の為の教育中心として仿かねばならぬ。教育は一生涯を通じて続く過程であるから、学校の器具や施設は子供に対してと同様成人に対しても利用されるべきである。地域社会の成人達は放課後

乃至は夕食後に学校へ集まつて、そこを自分達の教育的、社会的中心となすべきである。学校には文化的教育材、美術工藝、職業教育、会合の機会、体育等が成人の為に公開されていることが必要である。

2 学校は伝統的な教育プログラムに活力を与える為に地域社会の資源を利用しなければならない。カリキュラムや教授法を生き生きとさせ、教育に深みを与え、直接間接の学習経験を与える為に、学校は地域社会の教育的資料を調査し、それを目録に作り、これを教育の目的に利用すべきである。

3 学校はその教育課程の中心を地域社会の構造、過程及び課題の研究におかねばならぬ。各地域社会は人間経験の小宇宙である。何となればそこには生活設計、市民生活への参加、思想の交換、教育の確保、人民相互の調整、生命と健康の維持、美の享受、宗教的要求の充実、レクリエーション活動等の人間の基本的活動が行われ、それに関連した種々の問題が存在しているからである。それ故にコア、カリキュラムは郷土社会、地方社会の物質的基盤、構造、階級及び身分の構造、基本的活動、世論等の個人及び集団の福祉に影響する諸種の要求と問題を中心として組織されなければならない。

4 学校は地域社会の生活に参加することによつて地域社会を改善しなければならぬ。生徒、教師及び一般民衆は協同して真に公共の福祉を増進するような各種の奉仕活動の計画を樹て且つこれを実行しなければならぬ。かくして青少年は地域社会が自分達の奉仕を求めていることがわかり、又地域社会の方でも青少年の社会福祉への貢献が重要なものであり、聰明であり且つ効果的なものであることを発見するであろう。

5 学校は地域社会の教育的努力を調整すべきである。すべての生活は教育的であるから全体の教育過程の中で学校の任務は主として調整的なものであり、残滓的 (residual) なものである。それ故に学校は地域社会の全教育的機関を指導して、学校の内外における青少年及び成人を一層効果的に教育する組織的協同的な計画を樹立せしむべきであり、同時に学校それ自身は、学校以外では得られないし或は得られても満足には得られない様な望ましい (residual) 教育的側面を提供すべきである。

地域社会学校、生活中心学校がなさねばならぬ五つの強調点は將に以上のようである。

然るにわれわれはその中のたゞ一つ概念のみあこがれ盲目的となり、他の四つの概念を無視したり等閑視したりすることがしばしばある。例えばある教師は効果的資源の利用ということに非常な関心を持つ (第2の概念の重視) が協同的な地域社会の奉仕活動の心理的、社会的意味 (第4の概念の軽視) を忘れてしまう。又ある教師は資源の利用と奉仕活動には非常に熱心であるが、学校の施設そのものが地域社会の要求に奉仕すべきである (第1の概念) ことに気づかないし、又学校以外の教育機関と協力すれば (第5の概念) 自分の努力が一層効果的になるであろうことに気づかない。実際に五つの観点が適当にバランスされて用いられる学校は稀である。かくて「均衡と洞察」が必要である。

地域社会学校こそは均衡がとれ、すべての方法を十分に活現し得る学校である。まとめて地域社会学校、生活中心の学校は「地域社会の人々の爲に教育的中心として活動し、教育の目的にすべての適当な地域社会の資源を利用し、そのカリキュラムの中心を地域社会自身におき、地域

社会の切実な課題とつくりむことによつて、活潑に地域社会に奉仕し、すべての地域社会の機関を指導して、その地域の一層効果的な教育の目的に役立つように調整をする学校である。」

次に洞察ということの必要について述べる。歴史的にみるとアカデミック・スクールの大きな功徳は教科の体系的な組織をしたことである。進歩的な学校の功徳は、個人の円満な発達に対して強い関心を持つたことである。新しい地域社会学校は民主的に組織された協同的な努力によつて社会的再構成をすることに重点をおくために現われた。

この三つの強調点は各々現在の要求によつて変化されて、明日の新しい学校によつて止揚されねばならない。然らずんば個人的発展と民主的社会的再構成という教育目標は首尾よく成就されないのであろう。しかもこの地域社会教育、生活中心教育を重視することは決して狭義の「郷土的」なものにとらわれたものであつてはならない。

現代において地域社会が必然的に、地方的、国家的、世界的な社会と結びついていることを認識しない人は無洞察の人である。地域社会学校の関心と奉仕は究極において世界に及ぶものである。特に世界精神、世界平和が必死に求められている現代においてこの洞察が必要である。郷土地域社会学校は、知的出発点であり、社会的奉仕の領域であるがしかしそれは常は出発点として理解さるべきであり終極点ではないから、それは更に大きな地方、国家、並びに世界の全領域における社会過程に緊密に関係させらるべきである。

### 第三節 地域社会学校教育の基礎と目標

## 一、教育の基礎

#### 教育計画の變遷

現代の教師は自己の傳統的な考え方を改めつゝある。過去における教師は一般に次のように考えていた。

どうしたら私は所定の教科書の範囲をもつと有効に教えることが出来るであろうか？

どうしたら私が教えようと思つていることに對して、児童生徒に興味を持たせることが出来るであろうか？

と、然し現代の教師は次のように考え始めた。

現代の民主主義社会の生活で円満な、有為な、道徳的な成員となるために人々はどんな才能と態度を得ねばならないか？

私はどうして児童生徒にこのような才能を発達させることが出来るかと？

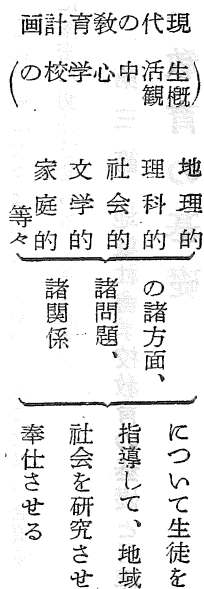
この新教育の動向は学問的、組織的な教科教材を過去と同様に価値あるものと考へる。しかしそれは、適当な教科教材は一層有効な生活をする為の道具として用ひられるべきであるという意味においてであつて、たゞ單なる知的訓練或は学究的な学習における(形式的な)練習として熟練させられるという意味においてではない。

地域社会教育運動においては上述の二つの方向が次のように表現されるよう。

傳統的教育中心學校の計劃圖

地理学  
理科  
社会科学  
家庭科

のような傳統的な教科の教授を豊かにし、活力を与えるために地域社会の資源を利用する



右によつて明かなように、生活中心の教育は傳統的なカリキュラムの立場に立つて、それを豊かにしようとする教育でもなく、又与えられた固定的なカリキュラムにとりつこうとしない児童生徒に外から無理に興味を持たせようとするものでもないし、或は又教授そのものを一層興味あらしめようとする教育方法でもない。

生活中心学校計画は極めて広汎なものであり、全学校計画の組織を目ざしているのである。そしてそれは現代の最高哲学と最高科学の基盤の上にその基礎をおいているものである果してそうであろうか、以下それを明かにしていく。

### 現代民主教育の基本的標準は何か

青少年に最も適した教育計画は次の二つの基本的な標準を具備していなければならない。

A 標準——内容は常に変化する文化的環境の中にあつて個人がそれによつて効果的に適應するに必須な才能を發展せしめるように準備されなければならない。

B 標準——方法は効果的な学習原理として認められたものに従つて実施されなければならない。

教育計画の成功の尺度は、その計画が右の基本的な社会的心理的標準をどの程度まで達成しているかということにある。そこで地域社会学

校、生活中心の教育が如何にこの標準を充足するかを検討してみる。

### 内容の標準——社会的現實

現代はまことに不安定な時代であり、世界的緊迫の競争の時代であり、政治的、経済的、社会的不均衡に充ちた時代である。かゝる時代にあつて、民主主義教育こそは田舎の一軒家においても或は又全世界を通じて、平和的な進歩を推進する唯一の永続的な基礎である。まさに現代は不安定な時代であるといつた。この現代のダマクリースの脅威とはどんなものであるか。

註 Damoclean menace ……栄華を極めて人に迫り来る脅威

その脅威は技術的なものであるよりもむしろ社会的なものである。

アメリカの自由と安全とは自然の欠乏によつて脅かされているのではなくして、むしろ世界と人類の平和を立脚点としてその上に人間文化を建設することができないことによつて脅かされているのである。若しやしくもかゝる理想的文化が世界に建設されるべきであるならば、それは世界を通じてそれに適切な教育をすることによつて確保されねばならない。教師は、青少年にこの現代の脅威を克服し、世界に光明を与えるには、全世界に民主的な組織を創造すべきであることを自覚せしめねばならない。すべての青少年は、人間の技術は、人間相互の幸福の為に存在すべきものであつて、破壊の為に使用されるべきでないという要求を發現せしめなければならない。

若し青少年が、民主的な世界文化を建設する態度を育成しないなら、彼等は彼等自身の冷たい機械の奴隷状態に止まるにすぎない。現代の分化した文化の問題に直面する青少年は十九世紀の傳統的な教育——知的訓練、個人的教養——は今日では不適當であり、否悲劇的なものでさえ

あることを知つてゐる。狹義の職業教育も亦然りである。

「人類が共存して生きることを學べ、然らずんば死を學べ」とは血と涙で書かれた、最も厳しい教育的命題である。

現代の学校は速かに、直接に、聰明に、人間の価値に關心を持つべきである。何となれば現代には、戦争それ自身でさえ比較にならぬ重大な問題があるからである。それは即ち、国内的には経済的組織の再編成、國際的には國際的政治の再組織という二大問題である。こゝに二十世紀の最も緊迫した社会的現実がある。われわれはこの問題とつづ組み、それを解決しなければならぬ。然らずんば人類の永続的な安全は得られないであらう。

以上が民主主義における学校が、敢えて教科書中心に停滞してはならないという理由である。社会は再組織されねばならない。それと全様に民主的な学校は速かにその基本的方向、展望、目的、カリキュラム、方法において眞に生活中心としなければならぬ。未曾有の歴史的現実に直面して、人類の本質的な研究は人間であり、人間の個人的、集团的、社会的問題である。

今やわれわれ自身とわれわれの兒童生徒を、崩れかゝつた象牙の塔から生きた地域社会に連れ出さねばならない。そしてそこで現実的な生き／＼とした方法で、人間と人間の諸問題を學ばねばならない。結論すれば、民主化され、産業化され、相互依存関係におかれた現代文化の只中にあつて、学校は青少年に一層有効に個人的社会的生活を準備をしてやらねばならぬということである。それは青少年に常に人間の生活過程と個人的経験とを關係せしめることによつて可能である。かくて、民主的な学校の第一の標準は

「その教育課程内容は社会的に現実的であれ」  
(its curriculum content be socially realistic)  
ということである。

### 方法の標準——心理妥當性

過去三十年間に心理学の科学的な研究と実験が進歩し、人間の成長と発達と學習についての客観的な基礎が確立されるに至つた。その研究成果をまとめると次のようである。

- (1) 「子供は本來動向 (dynamic) のものであり、子供が身体的、情緒的、知的に活動することは極めて自然のことであり、逆に活動しないことはとても不愉快なことである。それ故に、子供の學習状態は、子供の動的、知的、美的活動を呼びさますようにしなければならぬ。
- (2) 「子供は全体的なものである」即ち身体的、知的、情緒的な方面は、密接に關係していて、分離させられない。それ故に子供の教育的経験は、その全体の力の正常な發展と調和的な表現を図るよう融合されなければならない。
- (3) 「子供は知的存在である」考えたり、調査したり、発見したり、実験したりすることは、子供には本能的である。それ故に、子供は常に問題を分析し、適当な行為の仕方を計画しそれを実行し、その結果を評価する機会を必要とする。
- (4) 「子供は文化形象の中に生活している」子供の見解、態度、思想、興味、目的は、すべて環境に支配される。それ故に子供の学校の経験は、子供の行動を規制してゐるある集団の風習を分析したり、それを

乗り越えるように指導すべきである。

(5) 「子供は習慣的な存在である」子供の種々の行動は日常化されるにつれて習慣的となる。新しい学習は習慣的な反応が破られ、不適當であるとかつた時にのみ起るものである。それ故に、子供の学習経験は、以前の習慣でこなすことが出来るようなもののみでなく、更に新しい経験を再構成するようなものが望ましい。

(6) 「子供は創造的なものである」子供は、知的で動向であるので、自分の思想や感情を創造的に表現することに満足を感じるものである。それ故に、子供は時々波打っている感情、成熟しつつある思想を藝術的に表現するような適当な機会を與えるがよい。

(7) 「子供は興味と目的を持つている」子供の興味と目的は、彼の行動に拍車をかけるものとして役立つものである。それ故に、子供の学校の経験は、彼が強い興味を持ち得るものでなくてはならない。何となれば、興味を感じたものは子供の要求に答え、自分がやろうとしている今の目的に役立つものであるからである。

(8) 「子供の経験が彼の言葉に意味を與えるものである」言語が経験に先行した場合には子供は單にうはべの言葉を習得したにすぎない。それ故に、子供の学習状態は、現実と結びついた直接経験を與えねばならぬ。そしてその後、この直接経験の意味を一層くわしく説明したり、明確にしたり、強めたりするにふさわしい言語とか視聽覚的な代替経験を與えたがよい。

(9) 「子供の成長は、その成熟に関係がある」即ちある程度子供の知識、見識、情緒的態度、鑑賞力、思想、動機は、子供の心理的、情緒的、社会的、身体的な成熟が拡大することと關係する。それ故に子供

の責任とか自由とかの態度を漸次ひろげて行くには子供の成熟度を見定めてそれに即応することが望ましい。

(10) 「子供は社会において生きることを学習しつつある」子供は現代生活の要求に適應し社会的存在として行動することを学ばねばならない。それ故に、子供は人間としての共通な目的と公共の福祉に対し、かしく判断し、個人的責任をとり、他人と共に建設的に協同するようになり、常に刺戟と機会を與えることが必要である。

かくて人間の成長、發達、学習能力についての心理学的結論は次のようにいえる。

「有効な学習状態というのは、学ぶ者が動的、統一的、知的、創造的、目的的存在として行動し、物質的、生物的、社会的な環境の全生活経験と積極的に接觸することが出来るようなものでなければならぬ」と。

このような第二の公理をわれわれは強調する。若しそうでなかつたら、われわれは、民主的な学校の基礎である第二の標準を充足することが出来ない。その第二の標準とは即ち、

「その教授法は心理的に妥当なものである」

(its teaching method is psychologically valid)

という標準である。

「社会的現実性と心理的妥当性——これが現代の学校を評價する基本的な標準である。」

公私立、初等、中等、高等学校、大学等学校の種別如何にかゝらず、学校が眞に青少年の要求に應ずる為には、これら二つの標準に適應しなければならぬ。

では地域社会学校、生活中心の学校は果して、これらの基本的な標準



に適応することが出来るか？を検討しなければならない。地域社会学校教育は、その計画と管理が適切であれば右の社会的、心理的標準を充足することが出来る。即ち、それは民主的教育原理と地域社会中心の教育計画が如何に密接に結びついているかを科学的に比較検討して見ることに

## 民主的教育原理

- (1) 「全体としての児童を教育すること」  
児童生徒は、身体的、知的、情緒的、社会的に成長しつつある存在である。
- (2) 「計画は形式的固定的なものではなく、民主的であること」  
子供はじつとしていないものではない。随時他人と討議し、団体活動の計画に参加し、計画に責任を持ち、評價する機会を必要とする。従つて教育は親しみ易く、民主的で融通性があることを必要とする。
- (3) 「生徒の現在の興味から出発すること」  
教師は最初に生徒がどんな興味や目的を持つているかを発見することが重要である。そしてそれを次の学習への踏台にするがよい。このようにしてかぎられた興味は段々発展して一層広い興味、望ましい目的に展開する。
- (4) 「動機づけは内在的なものたらしめること」  
子供を最も動かす刺戟は實際生活そのものである。子供は興味あるものを探究し、物をいぢつたり、構成したり、藝術的自己表現を好むものである。

によつて明かになるであろう。

註 こゝに民主的教育原理とは、右の社会学的、心理学的結論から導出された教育原理を云う。

## 地域社会学校教育計画

- (1) 「融合学習を採用する」  
地域社会教育計画は当然知的理解、情緒的調整、社会的均衡、美的反応並びに身体的技能を含んでいる。
- (2) 「如何なる計画も、形式的でなく融通がきく、民主的であることを要求する」  
会見、見学旅行、調査、キャンプ、実地研究、奉仕活動、職業実習は上の原理を適用する機会を與える。しかしシークエンスを考慮すべきで、団体計画、責任の分担、相互評価は高学年で可能である。
- (3) 「すべての子供は、地域社会に興味を持つものである」  
子供は不規則動詞やチブス菌の生命循環にはあまり興味を持たない。しかしチブスにかゝつた遊び仲間のことには興味を持つ、この直接的な興味から衛生上のことを勉強するようにすることは困難なことではない。
- (4) 「地域社会学校教育の鍵は「発見させよ」ということである」  
蛙はどこにすんでいるかを自分で発見させる。こんな方法をとれば、僅かな刺戟で導入と展開が出来る。

(5) 「学習経験を生き／＼とさせ、直接的なものとする事」

学習が個人的な直接経験に基づかないと單なる言語主義に陥つてしまふ。それが子供に活動と眞を見せたり会見、奉仕活動、職業実習等を実施する所以である。

(6) 「問題解決を学習の基礎として強調すること」

眞の教育は、子供らに實際の問題とぶつかり、知的にそれを考え、それを解決する爲に色々なことを工夫する場合に生ずるものである。

(7) 「生徒に永続的な満足を与えるような仕事を与えよ」

自分の学習内容を嫌う生徒は、その内容を余り記憶しない従つてあらゆる学習状態は、その中で生徒が眞の成功を得個人的満足を發見し、かくて知的に感情的に社会的に成長するように保たねばならない。

(8) 「教育課程を地域社会の鏡たらしめること」

学習状態はそれが最も有効である爲には、生徒自身の地域社会生活の反映でなくてはならない。抽象的な学習状態では教育の轉移が殆んど期待されない。必修課程の中心は、傳統的な学校の論理的な教科領域や、多くの活動学校の社会的に意味のない興味單元やより、むしろ基本的な地域社会の基本的な社会過程と社会問題を直接に反映したものであることが大切である。然らずんば、カリキュラムは現代の青少年の個人的興味や経験の要求に生き／＼と關係することが出来ないであらう。

(5) 「最初に直接々触したことは、いつまでも生き／＼としてゐる」

教科書のみで貧民街の生活を讀まないで、実際にラム生活を見学したり、左官さんの作業を見学した生徒は、決して忘れられない生きた学科を學ぶのである。

(6) 「実生活には問題が豊富である」

結核病の前徴、発病、治療に關する眞理を學ぶために保健診断所を訪問する生徒達は問題解決法の貴重な経験を待つゝあるのである。

(7) 「多様多種の満足を与えることが可能である」

地方展に出品物を自分も製作し、近所の農夫の手傳をする子供達は、知的理解を増大すると同時に深い情緒的満足を經驗することが出来る。かゝるプロジェクトは成功感を与える。成功は満足である、満足は熱心度を増加する。熱心は將來の創造的活動に導く。

(8) 「地域社会は生きた実験場として用ひられる」

都市でも農村でもあらゆる地域社会には、生活設計、健康保持、公民生活への参加、レクレイション、宗教活動等の基本的な社会活動が行われてゐる。生徒がかゝる社会活動を觀察し、それに参加する時は、彼等は知的洞察力を發展せしめ、情緒的見透しと個人的技能を發展せしめ、その際彼等は彼等が直面する問題のみでなく、これらの問題とより組むことによつて、利用し得る資源資料を自分で發見しつゝあるのである。

以上が現代教育の基調となる民主的教育の基本的な原理であり地域社会学校の教育原理であるが、更に進んで地域社会学校の目標を探究

する。

## 二、目 標

教育は如何なる目標を求めらるか。地域社会学校は、社会生活を完うするための理解と態度と技能とを目標とする。これら三つは相互に関連があるのであるが、今各々について畧述する。

### 1 発展しつゝある文化の理解

凡て地域社会はわれわれの生活の基本的なまとまりであり、小宇宙である。そこには人間生活の基本的機能があり其の各々に、社会、国家のすぐれた知見と価値が表現されている。道具、技術、イデオロギとも現代の全文化を理解するなまな資料を提供している。この地域社会の文化の理解が第一の目標である。しかし單なる理解のみではまだ不十分である。倫理のない知識は最悪の場合には価値あるものを破壊することがある。従つてわれわれは第二の目標を留意すべきである。

### 2 全価値の発展

青少年が地域社会の活動に参加する時、彼等は地域社会の理解 (what is) を得るのみでなく、彼等は亦如何にすべきであるか (what ought to be) という民主社会生活の仕方に適応する態度と理想を發展させなければならぬ。眞の問題を確把握すると、青少年は、その実生活に貢献する態度を形成する。しかし豊富な知識、高い倫理性を得てもこれを団体生活で実にする個人的技能を欠けば効果がない。かくてわれわれは第三の目標を求めねばならぬ。

### 3 社会的参加への資格

青少年が發展しつゝある文化を理解し、価値的態度を構成した時、それを實現する爲に、現代文化の活動に有効に参加するに必要な社会的

資格を得なければならぬ。地域社会の問題とより組むことは、青少年に考えることによつて考えることを学ぶ機会を與える。故に青少年は地域社会の課題とより組み、問題を認識し、分析し、定義し、適当な資料を蒐集し、評価し、組織し、適当な結論をひき出し、検証し、適用して行く技術的能力を持つことが第三の目標となる。理解——倫理——集団作業技術……この三者が一体となつて（そして一体となつてのみ）地域社会建設が可能となる。かくて地域社会中心の教育計画は、現代の民主的な、生活中心の教育の眞の中核的任務を果たすことが出来る。

以上をまとめてみると、

社会的理解 現代の發展しつゝある人間文化についての發展的知識  
社会的態度 現代の社会事象を批判する価値標準を打建てる社会的態度

社会的技能 社会生活に有効に参加する個人的才能を増大する社会的技能

## 第二章 地域社会の分析

この章では教育計画を樹立遂行する上に必要な地域社会の実態調査を行う場合、教育者並びに児童生徒への参考になることを项目的に列挙するに止める。

さて孤島の学校と地域社会本土に教育的な橋が架けられねばならないが、かゝる橋が計画され、使用される前に、教育者と児童生徒は、その本土の地誌を熟知せねばならない。地域社会の底に横たわつている地層、構造、人間の活動、社会問題、制度、機關を熟知し、地域社会を全体として見透すことが必要である。適切な地域社会の分析は、地域社会

の理解と生活にとつて本質的なものである。

## 第一節 地域社会の構造

クラークによれば地域社会は複雑なものであるが、しかし定義するとは出来る。即ち地域社会 (Community) という言葉は、「共通の」(Common) とか、「公共の」(Communal) とかと語源を同じくし相互の交通によつて何物かを「共通に分けしこと」(sharing in common) を指示している。

われわれはこの特定社会への共属感を認めると、かくてクラークは、地域社会の機能的要素を求めするためにクツクの地域社会の定義を引用して自己の見解を明かにしている。

A、地域社会の機能的要素——地域社会の意義——

クツクはコミュニティーという言葉が特殊な集団（たとえば大家族）を意味したり、包括的な人種または文化的集団（例えばユダヤ人）に適用されたり、さらに相互作用をする全体としての世界等に用いられる。即ち「共通の価値目標で結びつゝてゐることを感ずる人々の集まり」を意味すると断定し、地域社会はわれわれの目標のために、ある場所を占める特殊の型の集団<sup>グループ</sup>とその文化。すなわち一地域の住民を包含し、特定の方法で機能を現わす活動圏というほどのものである。もつと具体的に定義すれば、地域社会とは

- (1) 接近した土地に住み
- (2) 共通の経験によつて結びつき
- (3) 幾つかの基本的な奉仕施設を持ち

(4) 地域的統一を意識し

(5) 団体組織の資格で行動の出来る

ような住民総体のことであると云つてゐる。

註 詳細は (Cook: The Community Idea, P. 27-29 参照)

クラークはこの考に組むつけて、地域社会は

- (1) 土地の特殊の空間を占めること
- (2) その住民は歴史——それを自分達のもと認めそれに誇を感じる——を持たねばならぬ。

(3) 住民は一つの地域社会として、共にそれに所属していると意識していなければならぬ。

(4) 住民は奉仕制度を持たねばならぬ。その奉仕制度は、人間の基本的要求に応え、集団の持続を可能ならしめるために数において、型において十分でなければならぬ。

(5) そして最後に、如何なる危機が起つても、共同してこれに当ることが出来、且つ公共の福祉に関する問題を解決することが出来ることである。これらが地域社会の要素であり、それらの相互作用が地域社会を作るのである。

B、地域社会の領域

習慣的にわれわれは地域社会を、村、町、市等を考える。しかし大部分の小さい町、村はもはやそれだけでは十分ではない。大きな市といえども多くの産物や奉仕を遠方の領域や機関に依存している。若し地域社会の概念が、子供の教育に現実的であり、実際の価値あるものとして考えられるならば、一層大きな精神的領域を含めて考えねばならぬ、それ故に学校の奉仕領域を郷土社会と考へ、これを基礎にして四つの重なる

地域社会の領域が考えられる。

- (1) 郷土社会——(Local Community) 学校の奉仕領域。市、町、村教会区等

- (2) 地方社会——(Regional Community) 一層大きな政治的或は地理的單位。州、日本では何々地方、県

- (3) 国家社会——(National Community) 全体として考えられた国家。

- (4) 国際社会——(International Community) 緊密な政治的、経済的、文化的紐帯によつて結ばれた国家群——將來の可能な世界国家を含む。

C、地域社会の型にはもう一つの側面がある。即ち地域社会の層である。これは研究者の能力と成熟度を考慮した分類である。ラッグは地域社会の層を三つに区別した。

- (1) 物質的な層 (The natural level) これは物質文明の層である。小学校の児童はこの層から始めるがよい。
- (2) 制度的な層 (The institutional level) これは人々の生活様式、慣習の層で中等学校の生徒に適當である。
- (3) 心理的な層 (The psychological level) これは(1)、(2)を規定する人間の態度、動機の層で、成熟した者に可能である。

## 第二節 地域社会の基盤 (Community Setting)

地域社会の生活に影響を與える自然なもの人間的ものを指し、次のものが分類される。

- A 自然的基盤——地域社会の生活に影響を與える自然的ものをいふ。

- (1) 氣候

- (2) 大いさ

- (3) 地勢

- (4) 土壤型及び肥沃度

- (5) 水源

- (6) 鉱脈

- (7) 森林と動物資源

B 人間の基盤——地域社会の生活に影響を與える人間的もので

- (1) 人口

- (2) 年令と性別

- (3) 教育状態

- (4) 職業状態

- (5) 国民性の型

- (6) 少数種族群

- (7) 階級及び身分等がある。

## 第三節 地域社会の社会活動及び社会問題

(Community Processes and problems)

地域社会の諸活動は、人々がその基本的な人間の必要とするものを充たすために行われるものである。そこに地域社会の生活を示す諸々の社会過程が生れる。社会過程は、「基本的な人間の諸必要」を充たすために行われる。それ故に、この人間の諸必要が満足に進行しつゝある社会

過程によつて充たされている時は、地域社会は、その機能を果たすことに成功している。然るにこれが満足に進行しない時、地域社会に種々の社会問題が起る。故に地域社会を理解するためには、現に進行しつつある社会過程を知ると同時に、これの失敗から生ずる社会問題をとらえることが必要である。

クラークは十二の社会過程と若干の社会問題をあげて一々説明を与えたのであるが今はその項目の列挙にとどめる。

- (1) A 自然環境利用 (Aは社会過程、Bは社会問題を現わす、以下全じ)
- B 土地利用の失敗、自然資源の荒廢
- (2) A 過去の評價
- B 祖先崇拜及び文化帝国主義、社会的不安定
- (3) A 人間相互の調整
- B 個人闘争、種族、民族、階級斗争
- (4) A 思想の交換
- B 固定した思想と行動、悪宣傳
- (5) A 生活設計 (—生産、分配、消費を含む)
- B 失業、貧困と不安定、労働の搾取、労資斗争、自然的資源の浪費、不適當な生産
- (6) A 市民生活への参加 (—政治活動等)
- B 公共的なものに対する無関心、政治の腐敗、犯罪、非行、怠惰
- (7) A 健康及び安全保持
- B 身体精神の不健康、貧民窟

- (8) A 家庭生活の改善
- B 結婚の不調と離婚、子供の放置、消費者搾取
- (9) A 教育の確保
- B 無学者、知能的資源の浪費
- (10) A 宗教的要求の充実
- B 迷信、頑迷固陋と狹量
- (11) A 美の享受
- B 地域社会の醜さ
- (12) A レクリエーション活動
- B 余暇の浪費、營業機關による搾取

#### 第四節 地域社会の歴史的過程

以上までは地域社会の現在の姿を主として分析したのであるが、地域社会の分析には更に地域社会の次の三つの生活を相互関連において考察する必要がある。

- (1) 過去——既に何が起つたか。
- (2) 現在——今何が起りつつあるか。
- (3) 未来——今後何が起るか、起るべきか、或は起るべきでないか。

#### 第五節 地域社会の機關

上述の社会活動又は社域機能が組織となつて現われたもので次の三点について考える要がある。

A 機関の種類、地域社会に奉仕する機関に凡そ次の三種がある。

- (1) 官庁的なもの。議会、郵便局、警察、教委、学校等
- (2) 営業的なもの。商店、鉄道、会社、商工会議所等
- (3) 私立であつて非営業的なもの。政党、教会等

B 奉仕の領域。各機関の奉仕領域は調査の対象となる。

C 地域社会の計画。地域社会が、一般の人々の福祉をもたらす為に、将来に向つて如何なる機関を計画しているか、宣傳をどうしているかを調査すべきである。

### この章のまとめと次への展開の爲に

先づ地域社会の分析は、決してそれ自身目的と考へてはならぬということ銘記すべきである。

次にわれわれは既に序文その他で、生活中心の教育の根本的な目的は、生徒に生活問題とより組む能力を得しめることであると述べ、更に特に第四章でかゝる能力には、適切な社会的理解・態度・技能が必要で生ることを理解し、本章では地域社会教育実施前に先づ地域社会の構造、基盤、活動及び問題、歴史的過程、機関の五つを理解すべきであることを述べた。

この章までは主として、組織的學校計画によつて望ましい地域社会研究と参加に対する一般的な必要事項を取扱つたのであるが、次に地域社会と学校とを連絡する橋——教育方法について述べなければならぬが、既に紙面も残り少くなり且つ「オルセンの十の架け橋」として余りにも知れわたつたことなので、思い切つて省略し、方法までも含めて、

今まで述べたことをオルセンに従つて図表化してみる。(別表2)

(別表2)

生活中心教育

↓  
地域社会生活と要求

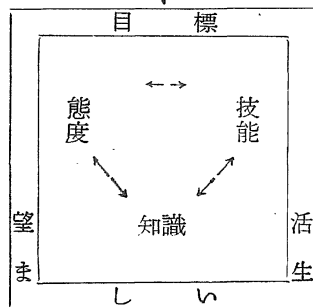
本質的教育課程内容															
地理と地誌			地域社会の基盤						人口構成と状態						
地域社会の領域	社会活動と問題												地域社会の層		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
郷土社会	自然環境の利用	過去の評價	人民相互の調整	思想の交換	生活設計	市民生活への参加	健康及び安全の保持	家庭生活の改善	教育の確保	宗教的要求の充足	美の享受	レクリエーション活動	物的制心	質的度理	的的的的
地方社会													全		上
国家社会													全		上
国際社会													全		上

↓  
学校で児童に興味あるものとされる

基本的教育方法

文獻的教材をよめる	視覚的聽覚的教材による	専門家を招へいする	会見する	見学旅行をする	調査をする	出張研究をする	共同宿泊をする	奉仕活動をする	職業実習をする
-----------	-------------	-----------	------	---------	-------	---------	---------	---------	---------

↓  
成人たる資格への本質的要求に応える



↓  
このようにして学校制度と地域社会生活の要求が関係する



### 第三章 地域社會學校の基本原理解——結び——

地域社會學校が成功するためには10の基本原理解が必要である。こゝではこの10の基本原理解を述べることによつて、地域社會學校教育の結論とする。

#### 本質的な原理解

- 1 学校と地域社會とを關係させるのに、三つの相連する目的があることを了解しよう
  - (1) 社会的理解——發展しつゝある文化の理解力の養成
  - (2) 社会的態度——民主的な社會を改善する動機を与える
  - (3) 社会的技能——地域社會に参加し、指導者となる能力を發達させる
- 2 地域社會を学校の奉仕の領域として定義しよう。しかし地域社會を、直接不斷に一層大きな領域としての地方、國家、世界と關係させよう。
  - 3 直接、間接或は現代、過去を問わず、あらゆる地域社會で研究される三つの主要な文化の層があることを認識しよう。
    - (1) 物質的文化——地理的要素及び人々が作りかつ使用したもの
    - (2) 制度的文化——人々の習慣又は風俗
    - (3) 心理的文化——人々を動かす思想、信念
  - 4 物質的基盤、社會過程、社會構造並びに社會問題を強調しよう。そしてこれらの要素間における密接な相互關係を重視しよう。
  - 5 全學校計画の各学年を通じて、兒童生徒の經驗が系統的 (Sequential) に發達するように計画しよう。
- 6 この系統的發達は、郷土社會の物質的文化を——特に地域社會の地理的、人口的方面に關係して——學習することから始めよう。
- 7 この初期の學習を次の三つの領域に括めよう。
  - (1) 空間——地理的に他の領地に
  - (2) 時間——歴史的に他の地域社會と領域に
  - (3) 領域——制度的及び心理的文化の層に
- 8 学校と地域社會とを効果的に關係させるために次のようなすべての適切な技術を用いよう。
  - (1) 現実との直接經驗——専門家の招へい。会見、見學旅行、調査、出張研究、共同宿泊、奉仕活動、職業實習を郷土社會並びに出来るだけ一層廣い領域において用いよう。
  - (2) 現実の模寫物——視覚、聽覺教材を時間的に隔つた地域社會の研究に広く用いよう。
  - (3) 現実の象徴物——文献を郷土社會の深い分析には勿論すべての三つの層を通じて、他の地域社會の領域の研究にも自由に用いよう。
- 9 種々の地域社會の基礎的な活動に参加し社會の諸領域を研究した兒童生徒の状態、問題、社會的貢獻に注意の焦点を向けよう。かゝる点に注意すると、個々の兒童生徒の生活と社會活動との間の有機的關係を重んじ、兒童生徒の興味と大人の関心が心理的に同一であることがわかるようになる。
- 10 各人をして先づ何よりも、地理上の領土、政治的機構、物質的、制度的文化に対してより、むしろ人々の最もよき傳統、倫理的及び社會的價值に対して忠実ならしめよう。

このような10の基本的な原理にして、始めて「教育は本来社会過程である。」という地域社会学校の中心思想を充足することが出来る。

以上述べた通り、地域社会学校は、教育の場として、単に知識の伝授、技能の訓練、道徳の養成にとどまらず、社会生活そのものを教育の場とするのである。

したがって、地域社会学校は、単に教育者による教育を受ける生徒の場としてではなく、教育者、生徒、地域社会が相互に関連しあふ場として、教育活動が行われるべきである。

このように、地域社会学校は、社会生活そのものを教育の場とするのである。したがって、教育者は、単に知識を伝授するだけでなく、社会生活そのものを教える責任を負うことになる。

以上述べた通り、地域社会学校は、教育の場として、単に知識の伝授、技能の訓練、道徳の養成にとどまらず、社会生活そのものを教育の場とするのである。

したがって、地域社会学校は、単に教育者による教育を受ける生徒の場としてではなく、教育者、生徒、地域社会が相互に関連しあふ場として、教育活動が行われるべきである。

このように、地域社会学校は、社会生活そのものを教育の場とするのである。したがって、教育者は、単に知識を伝授するだけでなく、社会生活そのものを教える責任を負うことになる。

以上述べた通り、地域社会学校は、教育の場として、単に知識の伝授、技能の訓練、道徳の養成にとどまらず、社会生活そのものを教育の場とするのである。

第三章 地域社会学校の基本思想 四

教育活動の場として、単に知識の伝授、技能の訓練、道徳の養成にとどまらず、社会生活そのものを教育の場とするのである。

したがって、地域社会学校は、単に教育者による教育を受ける生徒の場としてではなく、教育者、生徒、地域社会が相互に関連しあふ場として、教育活動が行われるべきである。

このように、地域社会学校は、社会生活そのものを教育の場とするのである。したがって、教育者は、単に知識を伝授するだけでなく、社会生活そのものを教える責任を負うことになる。

以上述べた通り、地域社会学校は、教育の場として、単に知識の伝授、技能の訓練、道徳の養成にとどまらず、社会生活そのものを教育の場とするのである。

したがって、地域社会学校は、単に教育者による教育を受ける生徒の場としてではなく、教育者、生徒、地域社会が相互に関連しあふ場として、教育活動が行われるべきである。

このように、地域社会学校は、社会生活そのものを教育の場とするのである。したがって、教育者は、単に知識を伝授するだけでなく、社会生活そのものを教える責任を負うことになる。

以上述べた通り、地域社会学校は、教育の場として、単に知識の伝授、技能の訓練、道徳の養成にとどまらず、社会生活そのものを教育の場とするのである。

したがって、地域社会学校は、単に教育者による教育を受ける生徒の場としてではなく、教育者、生徒、地域社会が相互に関連しあふ場として、教育活動が行われるべきである。

このように、地域社会学校は、社会生活そのものを教育の場とするのである。したがって、教育者は、単に知識を伝授するだけでなく、社会生活そのものを教える責任を負うことになる。